

資料4-1

栄養士法に基づく管理栄養士・栄養士養成施設の教育内容

管理栄養士養成施設の教育内容

教育内容		単位数	
		講義又は演習	実験又は実習
基礎分野	人文科学	42	
	社会科学		
	自然科学		
	外国語		
	保健体育		
専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	
	食べ物と健康	8	
専門分野	基礎栄養学	2	8
	応用栄養学	6	
	栄養教育論	6	
	臨床栄養学	8	
	公衆栄養学	4	
	給食経営管理論	4	
	総合演習	2	
	臨地実習		

栄養士養成施設の教育内容

教育内容		単位数	
		講義又は演習	実験又は実習
基礎分野	人文科学	12	
	社会科学		
	自然科学		
	外国語		
	保健体育		
専門分野	社会生活と健康	4	10
	人体の構造と機能	8	
	食品と衛生	6	
	栄養と健康	8	
	栄養の指導	6	
	給食の運営	4	

資料4-2

厚生労働省の管理栄養士国家試験 出題基準(ガイドライン)

平成27年2月16日 管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン) 改定検討会報告書より

分野		出題の狙い	出題数
専門基礎分野	社会・環境と健康	○健康とは何か、そして人間の健康を規定する要因としての社会・環境に関する基礎的知識を問う。 ○人々の健康状態とその規定要因を測定・評価し、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方とその取組についての理解を問う。 ○保健・医療・福祉制度や関係法規の概要についての基礎的知識を問う。	17問
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	○人体の構造や機能についての系統的な理解を問う。 ○主要疾患の成因、病態、診断及び治療についての基礎的知識を問う。	27問
	食べ物と健康	○食品の分類及び成分を理解し、人体や健康への影響に関する基礎的知識を問う ○食品素材の成り立ちを理解し、食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性の確保、栄養や嗜好性の変化についての理解を問う。 ○食べ物の特性をふまえた食事設計及び調理の役割の理解を問う。	25問
専門分野	基礎栄養学	○栄養の基本的概念及びその意義についての理解を問う。 ○エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義についての基礎的な理解を問う。	14問
	応用栄養学	○栄養状態や心身機能に応じた栄養管理(栄養ケア・マネジメント)の基本的な考え方についての理解を問う。 ○食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠についての理解を問う。 ○各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理についての基礎的な理解を問う。	16問
	栄養教育論	○栄養教育の意義及び目的に応じた理論と技法についての理解を問う。 ○社会・生活環境や健康・栄養状態の特徴に基づいた栄養教育の展開についての基礎的な理解を問う。	15問
	臨床栄養学	○傷病者や要支援者・要介護者の栄養管理(栄養ケア・マネジメント)について基礎的な理解を問う。 ○疾病の治療・増悪防止や栄養・食事支援を目的として、個別の疾患・病態や栄養状態、心身機能の特徴に応じた適切な栄養管理(栄養ケア・マネジメント)の方法についての基礎的な理解を問う。	28問
	公衆栄養学	○わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策についての理解を問う。 ○集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動についての基礎的な理解を問う。	18問
	給食経営管理論	○給食の意義及び給食経営管理の概要についての理解を問う。 ○特定多数人に食事を提供する給食施設における利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供に関わる栄養・食事管理についての基礎的な理解を問う。 ○給食の運営方法とそのマネジメントについての基礎的な理解を問う。	20問
応用力試験		○管理栄養士として栄養管理を実践する上で必要とされる思考・判断力、基本的な課題に対応する能力を問う。	20問
計			200問

資料 4 - 3

特定非営利活動法人日本栄養改善学会

「管理栄養士養成課程におけるモデル・コア・カリキュラム」の検討

【策定の背景と経緯】

現代社会では、栄養・食生活の多様化に伴い、栄養素等の不足から過剰までさまざまな問題を抱え、生活習慣病の増加等健康課題も深刻化している。家庭における共食機会の減少、日本の伝統的食文化継承の危機、食の安全への不安、食物供給の過度の海外依存等、栄養・食生活をめぐる課題が深刻化、多様化している。こうした社会情勢の中、管理栄養士の役割も、高度化、複雑化、多様化してきた。

本学会では、社会情勢・社会のニーズに応える「管理栄養士像」の検討と、その「管理栄養士」の養成課程における「教育のコア」を検討するため、2003年度に「第一次管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム検討会」を組織した。検討会では、本学会年次学術総会でシンポジウムを開催し、参加者の意見を聴取し、2006年10月に「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」第一次検討会報告を公表した。第一次検討会報告についてパブリックコメント募集し、2008年5月に「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」第二次検討会報告を公表、さらに第二次検討会報告のブラッシュアップし、2009年5月23日の理事会で「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」の提案を採択した。

続いて、管理栄養士養成課程における教育形態に着目し、全国栄養士養成施設の協力を得て各養成施設のシラバスを収集・分析し、2011年8月に「管理栄養士養成課程における専門基礎分野・専門分野の実験・実習・演習の現状」を、2013年8月に「管理栄養士養成課程における専門基礎分野・専門分野の実験・実習・演習の例示」を発表した。

上記を踏まえ、2009年に採択した「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム」をブラッシュアップし、2015年8月29日の理事会で「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」の提案を採択した。

【目指すべき管理栄養士像】

本学会が想定する管理栄養士とは、「人間の健康の維持・増進、疾病の発症予防・重症化予防、および生活の質（quality of life; QOL）の向上を目指して、望ましい栄養状態・食生活の実現に向けての支援と活動を、栄養学・健康科学等関連する諸科学をふまえて実践できる専門職」である。

社会に暮らすすべての人々、すなわち子どもから高齢者、健康人および病者や障がい者を対象として、その個人や集団の健康・栄養・食生活の課題を評価し、栄養診断し、関連職種や関連機関と連携・協働して、教育および環境の両面から効果的な支援や活動を計画・立案・実施し、モニタリング・評価（判定）する力を有し、栄養・食生活を通して人々の健康と幸福に寄与したいという熱意に溢れ、そのための自己研鑽を惜しまず、専門知識やスキルのみならず優れた見識と豊かな人間性を備えることが期待される。

資料4-4

他関連職種モデル・コア・カリキュラム検討の動向

	医学教育	薬学教育	歯学教育	看護教育	理学療法士
期待される像	多様なニーズに対応できる。	豊かな人間性と医療人としての高い使命感を有し、生命の尊さを深く認識し、生涯にわたって薬の専門家としての責任を持ち、人の命と健康な生活を守ることを通して社会に貢献する。	多様なニーズに対応できる。	専門職の一員として非専門職をも含む他の医療従事者等と相補的に連携をとりながら、看護の対象となる人々の自立と自己表現を援助するために活躍する。	対象者の持つ最大限の能力を引き出し、その助けとなる。社会の理学療法への要求に答える。
求められる資質・能力	<ol style="list-style-type: none"> 1) プロフェッショナリズム 2) 医学知識と問題対応能力 3) 診療技能と患者ケア 4) コミュニケーション能力 5) チーム医療の実践 6) 医療の質と安全の管理 7) 社会における医療の実践 8) 科学的探究 9) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 薬剤師としての心構え 2) 患者・生活者本位の視点 3) コミュニケーション能力 4) チーム医療への参画 5) 基礎的な科学力 6) 薬物療法における実践的能力 7) 地域の保健・医療における実践的能力 8) 研究能力 9) 自己研鑽 10) 教育能力 	<ol style="list-style-type: none"> 1) プロフェッショナリズム 2) 医学知識と問題対応能力 3) 診療技能と患者ケア 4) コミュニケーション能力 5) チーム医療の実践 6) 医療の質と安全の管理 7) 社会における医療の実践 8) 科学的探究 9) 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 	<ol style="list-style-type: none"> 1) プロフェッショナリズム 2) 看護学の知識と看護実践 3) 根拠に基づいた問題対応能力 4) コミュニケーション能力 5) 保健・医療・福祉における協働 6) ケアの質と安全の管理 7) 社会から求められる看護の役割の拡大 8) 科学的探究 9) 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 技術的側面 2) 経済的側面 3) 社会的側面
コアカリキュラムの構成(大項目)	<ol style="list-style-type: none"> A. 医師として求められる基本的な資質・能力 B. 社会と医学・医療 C. 医学一般 D. 人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療 E. 全身に及ぶ生理的变化、病態、診断、治療 F. 診断の基本 G. 臨床実習 	<ol style="list-style-type: none"> A. 基本事項 B. 薬学と社会 C. 薬学基礎 D. 衛生薬学 E. 医療薬学 F. 薬学臨床 G. 薬学研究 	<ol style="list-style-type: none"> A. 歯科医師として求められる基本的な資質・能力 B. 社会と医学 C. 生命科学 D. 歯科医療機器 E. 臨床医学 F. シミュレーション実習 G. 臨床実習 	<ol style="list-style-type: none"> A. 看護系人材として求められる基本的な資質・能力 B. 社会と看護学 C. 看護学一般 D. 看護実践の基本となる専門基礎知識 E. 多様な場に置ける看護実践に必要な専門知識 F. 臨地実習 G. 看護学研究と専門性の発展 	特になし
出典	医学教育モデル・コア・カリキュラム 平成28年度改訂版	薬学教育モデル・コア・カリキュラム 平成25年度改訂版	歯学教育モデル・コア・カリキュラム 平成28年度改訂版	看護学教育モデル・コア・カリキュラム 平成29年度検討会資料	理学療法士ガイドライン 平成24年度一部改正版 (公益社団法人日本理学療法士協会)